

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 地域でくらす会	代表者	井上 徹	法人・ 事業所 の特徴	社会福祉法人としての取り組みとしては、介護をしているご家族に対しての支援を行う為「やすらぎ支援員」としての養成講座や、介護予防サロン等の認知症予防対策と地域や市民への認知症啓発活動に力を入れている。事業所としては、様々な行事を開催し地域住民へ呼びかけを行い、地域の行事に参加するなどし、地域と協働出来るように努めている。また、介護を提供するだけでなく『その人らしくどう生きたいかに立ち返り、関係性こそその人らしさ、ひとりの支援が地域を変える』をモットーに、ご家族や地域・医療など、ご本人を取り巻く様々な関わりが一体となるよう働きかけている。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護 木守舎	管理者	阪本 亜百美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	人	1人	2人	人	人	3人	1人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	①迅速な情報周知を図るため、報告書の早期提出。 ②報告書、連絡ノート、気づきノート等への確認印（押印）の徹底。 ③研修に参加した職員が復命書の提出と、職員会議等で持ち帰り研修し情報共有する。 ④気づきノートに上げた内容を、ご利用者個々の担当職員がミーティングに上げ、次の支援に繋げる。	①報告書の提出が必要である事を知らない、又は自分では判断がつかない為、報告書の提出が出来ていない場合は周知が遅れる事がある。 ②業務前に、連絡ノートや気づきノートを必ず確認し、押印が出来ていない職員へは、声掛けにて徹底している。 ③外部研修に参加した職員が、持ち帰り研修をして、現場での検討や実践に活かしている。 ④気づきノートや報告書に上がった内容について、担当職員がミーティングにあげ、次の対策を皆で考え支援に繋げているが、勤務上、参加出来ず日中の様子が把握し難い職員もある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>他事業所と比べて迅速に対応し、課題が残らない様にしている。</li> <li>お世話になるばかりで非常によくしてもらっている。個々の連絡帳が作ってあって、一日の行動が分かる。夜勤明けには一生懸命書いている。家族は非常に参考になる。</li> </ul>	○気づきノート等で見聞きした事は、担当スタッフに積極的に伝える。日々の介護記録と気づきノートにその後の様子をしっかりと書き加え、支援に繋げやすくする。
B. 事業所のしつらえ・環境	①玄関に作品などの展示をする事によって地域の方が入りやすい環境を作っていく（町内の方の作品等の展示をする。）	①玄関に地域の方の作品（似顔絵等）を展示している。その方がご利用者と知人と分かり、関係を再構築できたり、近所の方が	<ul style="list-style-type: none"> <li>すばらしいじゃないですか。</li> <li>婦人会が無い地域もある。配食の手伝いはありがたいと思う。</li> <li>一回しか参加できないけど。サ</li> </ul>	○防犯と防災の観点から、センサーライトとセンサーの設置について見直しをする。 ○日々の点検で、気になる臭いが

	<p>②行事や地域活動に参加した職員が、その時の様子や得た情報を職員会議等で発信し情報共有する。(どのような方と出会いどのような話が出来たか。可能であれば写真も撮らせていただく。)</p>	<p>よく訪れるようになった。 ②地域のイベントに出かける際に行事計画書の反省や支援経過にその時の様子や情報を記載しているが、会議等で共有できていない。担当者に偏っており、参加できていない職員もある。 職員で配食の手伝いに行き、婦人会の方と話す機会がある。 ご利用者のお住まいの地域の行事等が把握できなかった。</p>	<p>ロンには行かせてもらっている。 ・事業所の人が配食に参加するなんてありえない。すごい事だと思う。 ・普通は専門の掃除をされる方がある。また(掃除のボランティアに)来ます。 ・事務所に誰もいない時は、不審者が入っても分からない。夜は建物自体が暗く感じる。玄関にセンサーやセンサーライトを付けてみたらどうか。</p>	<p>あれば換気等を行い、衛生管理にも努める。</p>
C. 事業所と地域のかかわり	<p>①子ども会や地域との交流を定期的に行えるよう、企画を発信し次に繋げる。 ②ご家族やご近所との関わりを知る事の必要性、事業所が地域活動をする意味をしっかりと理解する為、職員会議等で発信し、共通認識を図る。 ③来舎された方へは、担当者が話していても、挨拶を怠らない。(地域の方と限らず業者の方等にも)</p>	<p>①今年も子ども会との交流を企画し、ハロウィンを実施した。地域の踊りのグループにも敬老会に来て踊っていただいた。 ②ご家族やご近所との関わりを知る事の必要性、事業所の地域活動する意味については、発信できていたか不明確であった。 ③チャイムがあると、直ぐ出る様にし、誰か対応しているか確認している。又、チャイムが鳴らなかった時の為に、ベルを設置した。チャイムが鳴る様きちんと扉も閉めるようにしている。</p>	<p>・いくのさん家はしっかり躰が出来ているなあと思います。 ・挨拶はできていると思う。当たり前の事でもそうじゃないスタンスで過ごしている職員もいるので、社会人としてのマナーだと思うので、一番に受ける職員が印象決める。 ・誰に聞いても対応はしてくれる。不安が無いし安心感がある。 ・不審者対策にもなる。</p>	<p>○地域のイベントや個別支援を行う際は目的を明確にし、その成果や反省を計画書に記録し報告する。職員会議等で発表し、情報共有する。 ○近隣の子ども達へイベントの案内をし、ご利用者とふれあえる機会を増やす。</p>
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<p>①ご利用者個々の担当職員が中心となって、事前にミーティングで聞きたい情報を整理し以前の暮らしや状況を知っている家族や支援者からの情報を得る。 ②外出支援のみならず、担当職員が中心となって、家族・支援者・他職員から得た情報を基に、ご本人が生き活きと活動できるものを計画実施する。</p>	<p>①勤務上、担当利用者が訪問に行く機会がない職員は、記録や他の職員から聞いた情報で現状把握している。 事業所地域のサロンでは、日程を把握し、準備したり地域の方とご本人について情報を共有する事が出来た。 ②担当者からの提案がある方は調整しながら個別支援ができたが、まだまだご本人の思いを</p>	<p>・日々の業務を行いながらのミーティングはハードルが高い。日々の利用者の方に向かっていってしまうので、難しいかなと思う。 ・他職員で話し合いが出来る場になっている。 ・(自分の)担当者と合う機会が少なく話ができている。担当者が二人でもいたら良いと思う。補佐的な形を作ってもらえた</p>	<p>○再度、担当者をご本人やご家族等から情報を得る。以前の暮らし方については10個以上にこだわらず、少しずつでも把握する。 ○担当者としてご本人やご家族へご挨拶すると共に、中心となって声掛けする。</p>

	③担当職員が、朝のミーティング等で実施状況などの振り返りを発信し、記録の記載や確認等を中心となって行う。	聞きだせず、個別支援に繋がっていない方もある。 ③職員個々に担当利用者を持った事で、ミーティング等で自ら提案し、他職種とも話し合えるようになった。目標など今一度把握する為に情報を見直すようになった。	ら。 ・(そもそも) 担当者を知らない。 ・日光浴したり外出したりもしている。	
E. 運営推進会議を活かした取り組み	①引き続き地域の方からの声を知るために、運営推進会議に職員が順次参加する。 ②運営推進会議で、町内と事業所の協働で取組めるものとして目標をたて、意見交換を行う。テーマ『事業所のご利用者が、地域で活躍できる場づくり』	①運営推進会議に職員が常に参加できるようになったが、まだ運営推進会議の参加や地域との関わりができていない職員がある。 ②地域の方にも行事や運営推進会議等に参加していただき、そこで出た意見を職員会議で取り上げ反映している。(文化祭への作品出展)	・避難時の地域の方々との情報共有が大事。 ・引き続き民生委員との繋がりを大事にしてほしい。 ・計画を立てるだけでなく、具体的な計画を立てて確実に実施すること。 ・職員間での定期的な振り返りが大事になる。 ・出来ている事、出来ていない事が明確になる。	○引き続き、地域行事や運営推進会議に参加する事で、意見や要望を共有し取り入れる。
F. 事業所の防災・災害対策	①防災訓練に運営推進会議の委員にもご案内する。 ②年度初めの運営推進会議で、消防計画の配布し、その内容と消防設備の説明をする。 ③運営推進会議で年に1回は備蓄・備品の公表をする。 ④防災担当が主となり、防災グッズの点検と備蓄・備品チェックの年間計画を立て実施する。 ⑤もしもの時に地域で手助けしてもらえる方や生活状況を担当職員が中心となって把握し、必要に応じて関わりを見つける。 ⑥ご家族と緊急時の連絡方法を共有しておく。	①委員の方にも案内し、防災訓練に参加して頂いた。 ②7月の運営推進会議にて消防計画書の配布と説明を行い、館内も見て頂いた。 ③④担当者がチェックしているがデータで公表ができてない。 ④担当者が計画的にチェックしている。 ⑤ご利用者個々の災害時の避難場所や、協力者の把握については概ね取り組み、関係づくりにも努めている。利用時以外の生活状況(夜過ごしておられる場所や緊急時の対応など)まだ把握ができていない方がいる。 ⑥広報誌等でお知らせする。	・避難の事は地域の方との連携が必要と思うので、年々こうやって進化しているので引き続き地域と絶えず繋がってほしい。 ・「災害時頼りに」の所悩んだ。夜間大変だろうな。台風の時行ってあげようかなと思った。自分の身を守ってからじゃないと助けられない。職員に責任を押し付けるのは無理だと思う。 ・計画は立てても実践しないと課題が出ない。夜間避難も行動に移して実践されている事は評価できる。家族との情報のやりとり、行政とかもいい方法があれば情報提供したい。(市や県のホームページ)	○緊急時の避難場所を広報誌等でお知らせする。 ○防災担当が主となり、防災グッズの点検と備蓄・備品チェックを、年間計画チェック表を基に実施する。 ○緊急時、災害時に必要な情報は持出しやすいようにまとめておく。個別担当が主となり、年に一回は見直し更新する。